

事前學習課目

3 体位管理要領



この科目の学習内容

- 1 体位の種類と体位選定上の判断要素
- 2 体位管理の留意事項
- 3 保温実施上の留意事項

1 体位の種類と体位選定上の判断要素

(1) 体位管理要領

体位管理とは、傷病者に適した体位(姿勢)を保つことによって、呼吸・循環機能を維持し、苦痛を和らげ、症状の悪化を防いだり、軽減することを目的とした手当です。

(2) 体位の種類と判断要素

ア 体位の種類

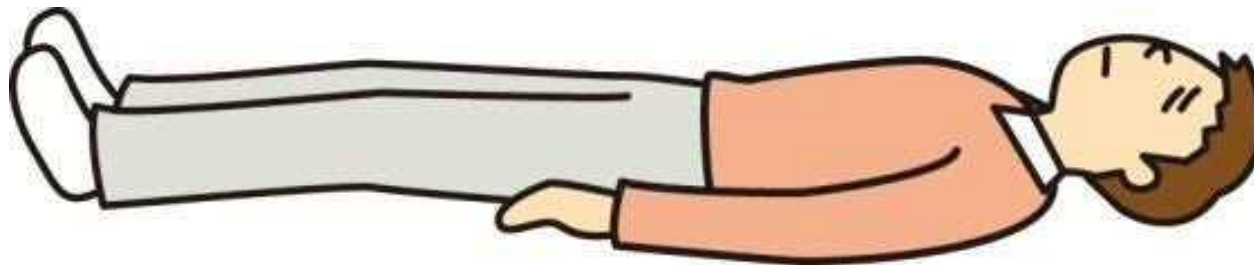
- (ア) ^{ぎょうがい}仰臥位(仰向け)
- (イ) ^{そくがい}回復体位(側臥位)
- (ウ) ^{ふくがい}腹臥位(うつ伏せ)
- (エ) ^{ひざくつきよくい}膝屈曲位
- (オ) ショック体位(足側高位)
- (カ) ^{はんざい}半坐位(頭側高位)
- (キ) ^{ざい}坐位

(ア) ^{ぎょうがい} 仰臥位

背中を下にして寝かせた水平な体位です。

適応症例

- ・傷病者の安定がもっともよく、胸骨圧迫や人工呼吸を行いやすい。

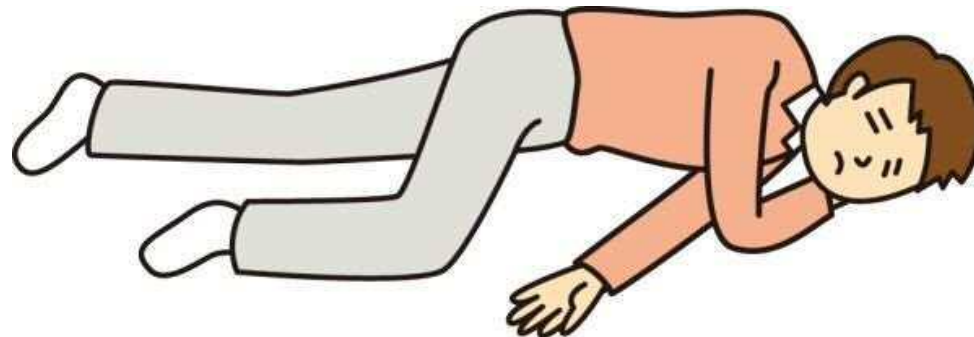


(イ) 回復体位(側臥位)^{そくがい}

横向きに寝かせた体位です。

適応症例

- 意識障害があるとき
- 嘔吐している、又は嘔吐が予想される時
- 妊婦の場合(※左側臥位)

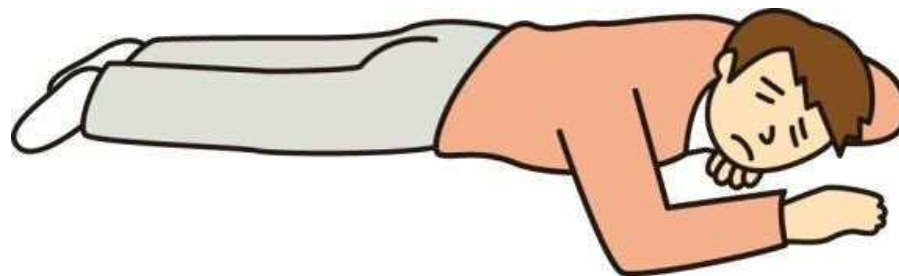


(ウ) ^{ふくがい}腹臥位(うつ伏せ)

腹ばいで、横を向かせた体位です。

適応症例

- ・ 背部に傷があるとき



ひざくつきょくい
(エ) 膝屈曲位

仰臥位で膝を立てた体位です。

適応症例

- ・ 腹部に外傷があるとき
- ・ 腹痛(急性腹症)があるとき

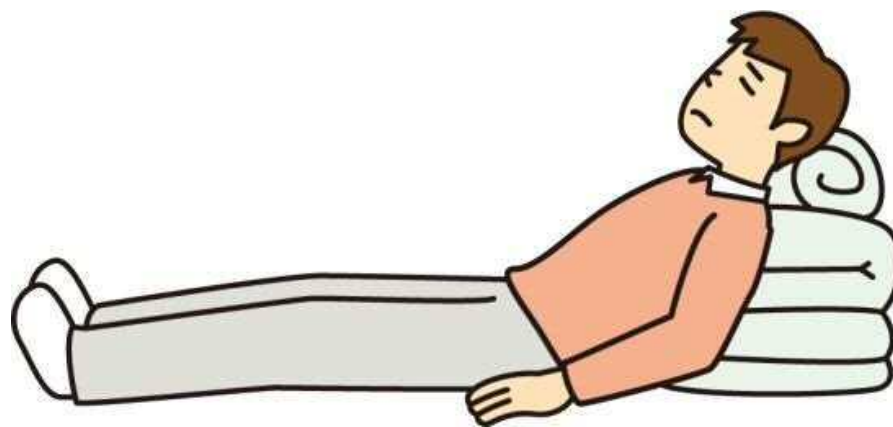


(オ) ^{はんざい}半坐位 ^{あたまがわこうい}(頭側高位)

仰臥位で頭側を少し高くした体位です。

適応症例

- ・ 脳血管障害が疑われるとき
- ・ 頭部外傷があるとき
- ・ 胸部から上位に損傷があるとき

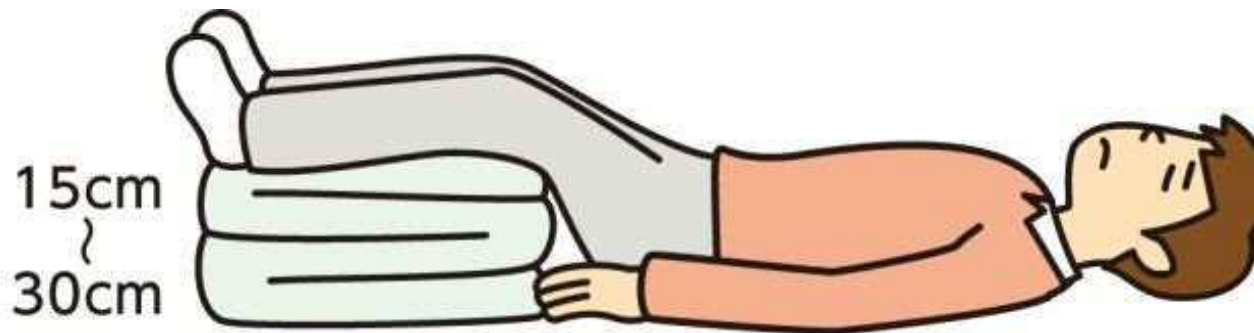


(カ) ショック体位あしがわこうい(足側高位)

仰臥位で足側を15～30cm程度高くした体位です。

適応症例

- ・ 脳貧血、失神、ショック等
- ・ 下肢の損傷があるとき



(キ) ざい 坐位

上半身を起こした体位です。

適応症例

- ・ 心疾患、喘息等による呼吸困難があるとき



(3) 体位選定上の判断要素

体位の選定にあたっては、傷病者が最も楽だと希望する姿勢を原則としますが、主訴及び下記の症状を観察し、総合的に判断します。

- | | |
|------------|---------------|
| 1 意識の状態 | 6 嘔気、嘔吐の有無 |
| 2 呼吸の状態 | 7 損傷(出血)の部位 |
| 3 循環の状態 | 8 麻痺の有無 |
| 4 顔色 | 9 痛みの有無 |
| 5 皮膚の状態・体温 | 10 医療処置継続中の状態 |

2 体位管理の判断要素

(1) 体位管理上の留意事項

- ア 傷病者がどうすれば楽になるかを聞きながら、傷病者に苦痛を与えない安定した体位とする。
- イ 傷病者の呼吸が楽にできるような体位とする。
- ウ 受傷部位が安静になるような体位とする。
- エ 出血部が止血でき、全身の血液循環が障害されない体位とする。

(2) 体位変換時の留意事項

- ア 事前に傷病者に説明し、痛みや不安を与えないようにする。
- イ 家族、関係者等に協力を求め、安静かつ安全に行う。
- ウ 体位を変換することにより、二次損傷を起こさないようにする。
- エ 容態が悪化した時は、早期に体位変換し応急手当を実施する。

3 保温実施上の留意事項

(1) 保温の原則

保温とは、人工的に熱を加えることではなく、傷病者自身の適正な体温を保つことをいいます。保温は、保安性のよい材料を用いて、下に厚く、上に軽く傷病者に負担のかからないように行う事が大切です。

(2) 保温の対象となる状態とは

熱中症など体温が異常に上昇しているとき、又は本人が拒否した以外は、原則として毛布等を用いて保温を行います。

特に悪寒、体温低下、ショック症状(顔貌蒼白、冷汗、脈拍微弱、浅く速い呼吸、四肢冷感など)を認めたときには積極的な保温が必要です。

(3) 保温実施上の留意事項

- ア 意識がある傷病者に対しては、保温の効果を確認するとともに、元気づけと安心感を持たせるように配慮する。
- イ 傷病者が楽な体位で保温を行うとともに、過度の圧迫感を与えないようにする。
- ウ 濡れた衣類は脱がせ、身体が濡れている場合はタオル等で充分拭き、水分を除去してから保温を行う。
- エ 毛布等は傷病者の身体上に掛けるよりも、下に多く敷き接地面へ体熱が奪われないようにする。
- オ 副子固定の手当、創傷の手当等を施した部位は、視認できるようにしておく。



クリックして進めてね！

まとめ

1 体位の選定にあたっては何を重要視しますか？

傷病者の訴え（最も楽だと希望する姿勢を聞き、苦痛を与えない安定した体位とする）

2 体位変換する場合に注意すべきことは何ですか？

- ・事前に説明し、痛みや不安を与えない
- ・安静かつ安全に行う
- ・動かすことによって二次損傷を与えないようにする

3 保温を行う上で注意しなければならないことは何ですか？

- ・保温効果を確認するとともに、元気づけと安心を持たせるように配慮する
- ・楽な体位で保温し、過度の圧迫感を与えない
- ・濡れた衣類は脱がせ、身体が濡れている場合はタオル等で拭いてから保温する
- ・毛布等は身体の下に多めに敷き、接地面に体熱が奪われないようにする
- ・創傷等の手当がしてある部位は視認できるようにする

以上で、学習のポイントを終了します。

理解できたかどうか、ミニテストで確認しましょう。

